京都・長岡京跡

1 所在地　京都府向日市上植野町大田、鶏冠井町八ノ坪

2 調査期間　一九七九年（昭54）五月十五日～七月十八日、十一月十六日～十二月十五日

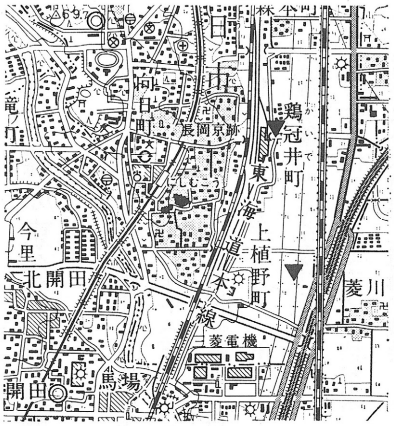
3 発掘機関　向日市教育委員会

4 調査担当者　山中　章

5 遺跡の種類　都城跡

6 遺跡の時代　平安時代（八世紀末）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



一九七九年度、長岡京内で実施された発掘調査は、三九件に達する。内、木簡の出土した調査地は二件あり、その概要は次の通りである。

(1) 推定左京四条二坊九町の調査により、掘立柱建物十一棟、柵二列、井戸五基を検出した。木簡は、七五cm四方、深さ二・一mの、方形で四隅に柱を立て、間を縦方向に板を並べて側板とした井戸の最下層から一点出土した。本調査で検出された他の四基の井戸は、曲物を組み合せて造った小さなもので、この井戸だけが特異な構造をしている。井戸の中からは、長岡京に特有な須恵器の壺や製塩土器が出土している他、井戸の柱の一つに「(示)」の刻印が四箇所記されていた。尚、この井戸周辺には石が敷かれており、近接する建物は、一×一間の小建物を二×三間以上の建物が囲ったものになっている。

(2) 推定猪隈小路（仮称）西側溝の調査により、溝中から木簡一点を出土した。溝は、幅八〇cm、深さ四〇cmの南北にのびる素掘りのものである。木簡は、溝中に大量に捨てられた桧皮とともに出土した。他の遺物は極端に少なく、わずかに、溝中より平瓦片や、凝灰岩片が出土するのみである。

8 木簡の釈文・内容

(1) ×□請火之飯酒□□朝□×　(154)×(23)×3　011

(2) □□□　091

9 関係文献

山中章「長岡京跡左京第15・27次（7ANFOT・I・II地区）発掘調査概要」（向日市教育委員会『向日市埋蔵文化財調査報告書第6集』）一九八〇年

（山中　章）